

# 大阪市西淀川区、田蓑神社(869年)の由来と社殿測量

沢 勲\*・西山 正明\*\*・石田 信也\*\*\*・宮本 正明\*\*\*\*

(洞窟環境 NET 学会\*・西山組\*\*・一級建築士事務所 ADE\*\*\*・ワイ・ハウス\*\*\*\*)

## History of the Tamino Shrine and its Shrine Measuring, Nishi-Yodogawa Ward, Osaka City

Isao SAWA\*・Masaaki NISHIYAMA \*\*・Shinya ISHIDA \*\*\*・Masaaki MIYAMOTO\*\*\*\*

### ABSTRACT

We study an origin and the Shrine environment of the Tamino Shrine in Tsukuda, Nishi-Yodogawa Ward, and there is the study of the writers for the purpose of making the database of the cultural heritage. Foundation of the Tamino Shrine is 869 age. Key Words of the Tamino Shrine are Amaterasu-Omikami, the Empress Jingu, the subjugation of the Three Kans, Ieyasu Tokugawa. In the Tamino Shrine, the length of the lateral and depth in the main shrine building is 12.4m and 4.9m. In addition, the height of the worship hall and main hall are 4.4m and 6.3m. The authors were able to ascertain the cultural heritage of buildings in the Tamino Shrine.

キーワード:伊勢神宮の天照皇大神、神功皇后、三韓征討、徳川家康、社殿測量

Keywords:Amaterasu-Omikami, The Empress Jingu, The subjugation of the Three Kans, Ieyasu Tokugawa, Shrine Measuring

[洞窟環境 NET 学会 紀要 3 号][Cave Environmental NET Society(CENS) 、Vol.3(2012), 131-138 pp]

### 1. はじめに

本研究は、大阪の文化遺産学として、地域に貢献する資料を後世に残す参考文献として作成したものである。本稿は、大阪市西淀川区、田蓑神社で行った洞窟環境 NET 学会と関西大学校友会西淀川支部による神社総合学術調査(2011年)報告の一部である。

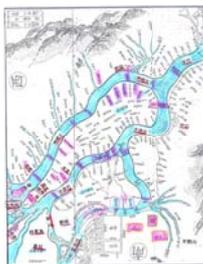


図 1-1.増修大坂大絵図の寛政 9 (1797)年



図 1-2.田蓑神社はE! 礎!



写真 1-1.田蓑神社社殿。建築様式は住吉造

西淀川区は、大阪府大阪市の最西端に位置し、東西約 5.31km、約南北 5.94km、境界線距離約 17.68km、総面積 14.23km<sup>2</sup> である。田蓑神社は、西淀川区の最東端に位置し、区内神社内では北端神社で、緯度 34°43'07"N;経度 135°26'54"にある。田蓑神社の場所は、大阪市の西部東部は海岸に位置し、大阪市西淀川佃 1-18-14 に属する。本神社に関してはこれまで本格的な学術調査は少ない。新淀川と交差する旧中津川が接近した位置にあり、台風や水害が多く、貴重な歴史文化遺産が消失しているため、歴史の文化遺産をどのように保存できるかを工夫したのである。後世に残す貴重な遺産を継承する関連性も興味深く、そうした点が本神社調査の最初の動機となった。図 1-1 は寛政 9(1797)年の増修大坂大絵図で、図 1-2 は田蓑神社の位置図②、写真 1-1 は、田蓑神社の社殿である。

既存の神社関連資料情報を収集して、調査と鳥居の規模と形態、成因等についての概要を把握し、構成要素の現象を示す事実を明らかにした。そして、区内にある神社と鳥居の大きさに重要な関連性があることを予測した。ただし、区内において、神社と鳥居の存在に関する報告はこれまで皆無である。

単に生駒山の火山活動史だけでなく、北摂の堆積流とその沿岸地域の海岸地形発達史や環境変遷史との関わりで、神社がどのような位置づけや問題点を有しているかという検討が重要である。田蓑神社と行政との関連歴史の結果は、㊦貞観 11(869)年に鎮座、当初は「田蓑嶋神社」と言われた。㊧寛保元(1741)年に、「住吉神社」と改名、明治元(1868)年に「田蓑神社」現在に至る。㊨天照皇大神の兄神に当たる表筒之男命・中筒之男命・底筒之男命の三柱。㊩神功皇后が三韓(馬韓・辰韓・弁韓の国)征討へ赴く時、三韓の王等を降伏させて、国に戻る途中、田蓑嶋に立ち寄って勝ち戦を祝った。㊪天正 14(1586)年、家徳川康がこの地に立ち寄り、池田市多田神社に参詣時、田蓑嶋の漁民らが漁船をつかかって、神崎川の渡船を勤めた。漁業の一方、田も作れと命じ、それを機に田蓑嶋を佃と改め、寛永 8(1631)年、田蓑嶋神社内に、徳川家康も奉られることになった。㊫現在、東京都中央区佃にある住吉神社である。

注 1.神功皇后(じんぐうこうごう、170 ～ 269 年)は、仲哀天皇の皇后。崩御:269 年、陵所:五社神(ごさし)古墳、異称:聖母・氣長足姫尊・息長帯比売命・大帯比売命・大足姫命皇后、父親:息長宿禰王、母親:葛城高頼媛、皇配:仲哀天皇、子女:応神天皇、皇居:磐余稚桜宮(若桜宮)。『日本書紀』などによれば、201 年～269 年間政事を執った。夫の仲哀天皇の急死(200 年)後、住吉大神の神託により、お腹に子供(のちの応神天皇)を妊娠したまま海を渡って朝鮮半島に出兵して新羅の国を攻めた。神功皇后が三韓征伐の後に畿内に帰るとき、自分の皇子(応神天皇)には異母兄にあたる香坂皇子・忍熊皇子が畿内にて反乱を起こして戦いを挑んだが、神功皇后軍は武内宿禰や武振熊命の働きによりこれを平定したという

神社の鳥居の件では、一応の成果が得られたデータから解析を行った。㊬神社の鳥居の写真撮影、㊭鳥居の精密測量(神社の測量値と模型製作)である。平成 23(2011)年夏、西淀川区民祭りやホテルグランヴィア大阪において展示を行った。短時間の調査であったため、未解明の事項が少なくない。今後も調査を継続する予定であるが、とりあえずこれまでの成果を整理した。測量した値は、多項式によって解析を行った。本稿においては、大阪市西淀川区田蓑神社にある社殿の測量値解析と模型製作について報告する。

## 2. 田蓑神社の由来

貞観 11(869)年 9 月 15 日に鎮座(ちんざ)、当初は「田蓑嶋(たみのしま)神社」と言われた。その後、寛保元(1741)年 9 月に、「住吉神社」と改名し、さらに明治元(1868)年に「田蓑神社」となって現在に至る。

この神社は「住吉の四柱」として知られている。元は、伊邪那岐(いざなぎ)大神の子で、伊勢神宮の天照皇大神(あまてらすおおみかみ)の兄神に当たる表筒之男命(うわつつのおのみこと)・中筒之男命(なかつつのみこと)・底筒之男命(そこつつのおのみこと)の三柱である。そこへ、神功(じんぐう)皇后が三韓(馬韓・辰韓・弁韓の国)征討へ赴く時、住吉三神を守り神とし、三韓の王等を降伏させて、国に戻る途中、この田蓑嶋に立ち寄って勝ち戦を祝った。後に、この三柱に、神功皇后自身も加わって四柱となり、「住吉の四柱の大神」と言われるようになった。その時の船の鬼板が神宝として今も祀(まつ)られている。

また、この神社は徳川家康とも深い縁がある。天正 14(1586)年、家康がこの地に立ち寄り、多田の廟(現在、池田市多田神社)に参詣の時、田蓑嶋の漁民らが漁船をつかかって、神崎川の渡船を勤めた。その縁により、漁民らには「全国どこで漁をしてもよし、また、税はいらない」という特別のごほうびが与えられた。さらに、漁業の一方、田も作れと命じられた。それを機に田蓑嶋を佃と改め、寛永 8(1631)年、田蓑嶋神社内に、徳川家康も奉られることになった。

注、徳川家康の時代:戦国時代-江戸時代前期、生誕:1543 年、死没:1616 年、改名:竹千代(幼名)→松平元信→元康→家康 →徳川家康、通称:次郎三郎、尊称:大御所(将軍引退後)、神君(死後)、神号:東照大権現、墓所:日光東照宮・大樹寺・高野山、幕府:江戸幕府 初代征夷大将軍、主君:今川義元→氏真→織田信長→豊臣秀吉→秀頼、氏族:松平氏→徳川氏、父:松平広忠、母:於大の方、兄弟:徳川家康・松平家元?・内藤信成?・松平忠政?・樵臈惠最?・市場姫、異父弟:松平康元、松平康俊、松平定勝、妻の正室:築山殿、継室:朝日姫、側室:養珠院・西郷局・茶阿局・英勝院・雲光院・相応院ほか、子:松平信康・亀姫・結城秀康・督姫・徳川秀忠・松平忠吉・振姫・武田信吉・松平忠輝・徳川義直・徳川頼宣・徳川頼房、ほか

さらに、天正 18(1590)年 8 月、徳川家康が関東へ下った時に、佃の人ら 33 名と田蓑嶋神社宮司、平岡正太夫の弟、権太夫好次が住吉四神の分神霊を奉戴して、安藤対馬守、石川大隅守の邸内に一時奉祭した。寛永年間に鉄炮洲(現在佃嶋)の地をいただき、大阪の佃と同じ名を付け、住吉大神の社地を定めた。正保 3(1646)年 6 月 29 日、住吉の四柱大神と徳川家康の霊を祭った(表 2-1)。(「平成祭礼資料」から一部修正)

表 2-1. 大阪市西淀川区、田蓑神社の詳細資料

御祭神	住吉四柱大神(表筒男命、中筒男命、底筒男命、神功皇后)		
キーワード	伊勢神宮の天照皇大神、神功皇后、三韓征討、徳川家康		
鎮座地	555-0001 西淀川区佃 1-18-14	神社創建	貞観 11(869)年、住吉造
電話番号	06-6471-5416	Fax 番号	06-6471-5059
ホームページ	<a href="http://www.cave-ens.com/cave/jinja.html">http://www.cave-ens.com/cave/jinja.html</a> <a href="http://www.jinjacho-osaka.net/m01k_02_nisiyodogawa_taminoi.html">http://www.jinjacho-osaka.net/m01k_02_nisiyodogawa_taminoi.html</a>		
交通手段	阪神電車「千船駅」北へ 700m 徒歩 10 分		

### 3. 田蓑神社社殿の測量と構造観察

本殿(ほんでん)は、祭神を奉斎する建物で、御神体奉安の場でもあり、御神体が安置される中心の建物でもある。大神神社のように三輪山を御神体として本殿を持たない神社もある。主な形式は、神明造り、大鳥造り、住吉造り、大社造り、春日造り、八幡造りであり、本殿・神殿・正殿がある。本殿の規模は、正面から見る柱間の数で表示する。例えば、三間社とは、正面に柱が四本立っていて柱と柱の間が三つである。「間」は、柱間が一尺でも十尺でも一間と数える。普通は、一間社が圧倒的に多い、全体の九割以上を占め、残りは三間社である。

神社本殿は、建築構造から身舎(おもや・母屋)と庇(ひさし)に区別される。向拝や流造と春日造の庇には、角柱を用いる。円柱は正式の柱、角柱は略式の柱と規定する。

田蓑神社社殿の構造は住吉造である。住吉造とは次のようである。大阪の住吉大社本殿に代表される神社建築の一形式。あたかも大海原をゆく船団のように立ちならび、「三社の縦に進むは魚鱗の備え、一社のひらくは鶴翼の構えあり よって八陣の法をあらわす」とも伝えられる。特徴:破風は古式の直線形、神社建築の最古の様式とされる。構造:妻を正面とする前後に細長い建築で、内部は内陣・外陣に区切る。幅は 2 間、奥行きは内陣・外陣各 2 間の長方形。切妻造・妻入であり、平面的に加工され直線的な外観。屋根:萱葺に限らず柿葺や檜皮葺など幅広い。破風は直線形、妻飾りは交叉合掌型。反りのない切妻造り、切妻屋根に千木と 5 本の堅木を置く。柱:幅は 2 間で、奥行き 4 間、中央の御心柱と正面中央の柱がない。壁:正面中央の 1 か所に観音開きの御扉による開口部が設けられる。図 3-1 は田蓑神社社殿の平面図である。社殿の規模は正面横 12.4m、奥行き 4.9m、拝殿高さ 6.8m である。本殿と拝殿は奥行き 15.8m と幅 23.8m の範囲内にある。

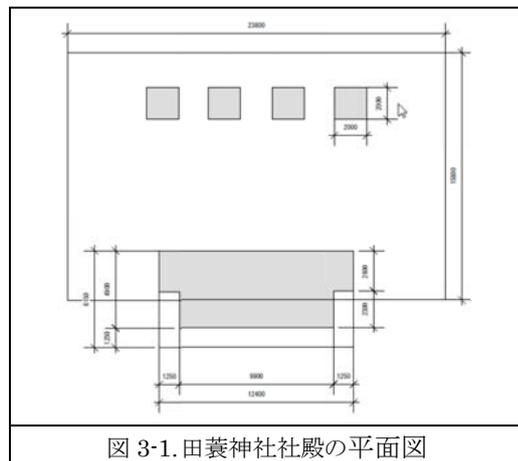
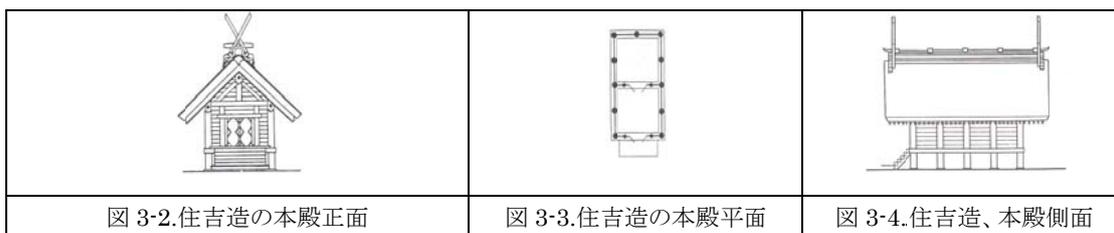


図 3-1. 田蓑神社社殿の平面図



神左側から鯉木は5本×2と4本×2の4棟がある。各棟の面積は2m×2m=4平方メートルである。社建築の本殿の基本的な形式と屋根の形式は次の通りである。図 3-2 は住吉造の本殿正面、図 3-3 は住吉造の本殿平面、図 3-4 は住吉造の本殿側面である。

表 3-1. 西淀川区区内にある 8 神社の社殿の規模(m)

	神社名	創建年	正面横	奥行	拝殿高さ	本殿高さ	建築様式	鯉木	鳥居
1	野里住吉神社	1382 年	16.2	17.2	7.9	8.8	流れ造	5 本	5 基
2	田蓑神社	869 年	12.4	4.9	6.8	分離	住吉造	18 本	5 基
3	姫嶋神社	不祥	8.3	13.3	5.0	7.1	住吉造	5 本	4 基
4	大和田住吉神社	1313 年	10.5	13.1	6.4	5.0	住吉造	5 本	5 基
5	福住吉神社	1656 年	6.1	11.9	4.5	4.5	流れ造	無	6 基
6	鼻川神社	不祥	9.1	14.1	6.1	2.3	神明造	3 本	3 基
7	五社神社	1688 年	6.0	9.1	5.5	5.5	権現造	3 本	8 基
8	大野百島住吉神社	1644 年	7.3	12.4	5.7	5.7	住吉造	無	5 基
	MAX		16.1	17.2	7.9	8.8		18 本	8 基
	AVG		9.5	12.0	5.7	5.6		6.5 本	5.5 基
	MIN		6.0	4.9	4.4	2.3		3 本	3 基



田蓑神社の外観は、写真 3-1 正面、写真 3-2 本殿、写真 3-3 側面のようにになっている。これを、模型 3-1 から模型 3-3 のように模型にした。



表 3-2 は、西淀川区区内にある各神社と社殿の正面横距離の関係を表示した。西淀川区区内にある社殿の正面横距離において、最大値は 16.2m、平均値は 9.5m および最小値は 6.0m である。田蓑神社社殿の正面横距離は、区内では 2 番目に長い距離である。表 3-1 から表 3-2 と図 3-5 について図式を行った。西淀川区区内にある各神社 (X 軸) と社殿の正面横距離 (Y 軸で単位は m) の関係から多項式近似(回帰)の 2 次方程式(2 次変数)を求めた。ここで、R<sup>2</sup>は X と Y の信頼性関係を意味する決定係数である。X と Y との関係を究明するため考察方法として、次のような回帰方程式を与えられる。

$$y = 0.199x^2 - 0.446x + 6.409 \dots \dots \dots R^2 = 0.983(\text{決定係数}) \dots \dots \dots (3-1)$$

ここで、決定係数は高信頼性の値であり、西淀川区区内にある各神社と社殿の正面横距離の関係から一定の傾向を判明した。

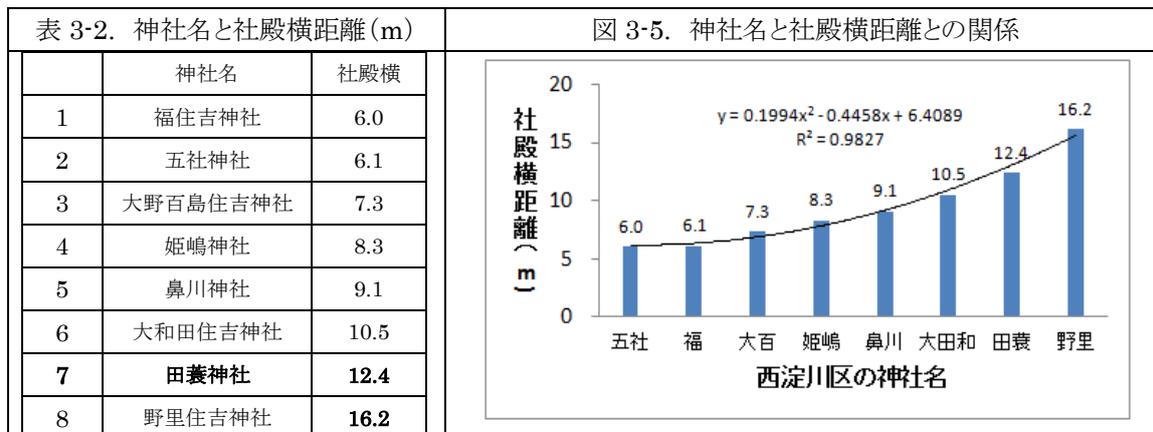


表 3-3 は、西淀川区区内にある各神社と社殿横(奥行き)の関係を表示した。西淀川区区内にある社殿の社殿奥行きにおいて、最大値は 17.2m、平均値は 12.0m および最小値は 4.9m である。田養神社の社殿奥行きは、区内では最短距離である。これは、本殿と社殿が分離され、中央に中庭があるからである。表 3-1 から表 3-3 と図 3-6 について図式を行った。西淀川区区内にある各神社(X 軸)と社殿の社殿奥行き(Y 軸で単位は m)の関係から多項式近似(回帰)の 3 次方程式(2 次変数)を求めた。ここで、R<sup>2</sup>は X と Y の信頼性関係を意味する決定係数である。X と Y との関係を探明するため考察方法として、次のような回帰方程式を与えられる。

$$y = 0.124x^3 - 1.827x^2 + 9.129x - 2.614 \cdots \cdots R^2 = 0.997(\text{決定係数}) \cdots \cdots (3-2)$$

ここで、決定係数は高信頼性の値であり、西淀川区区内にある各神社と社殿の社殿奥行きの関係から一定の傾向を判明した。

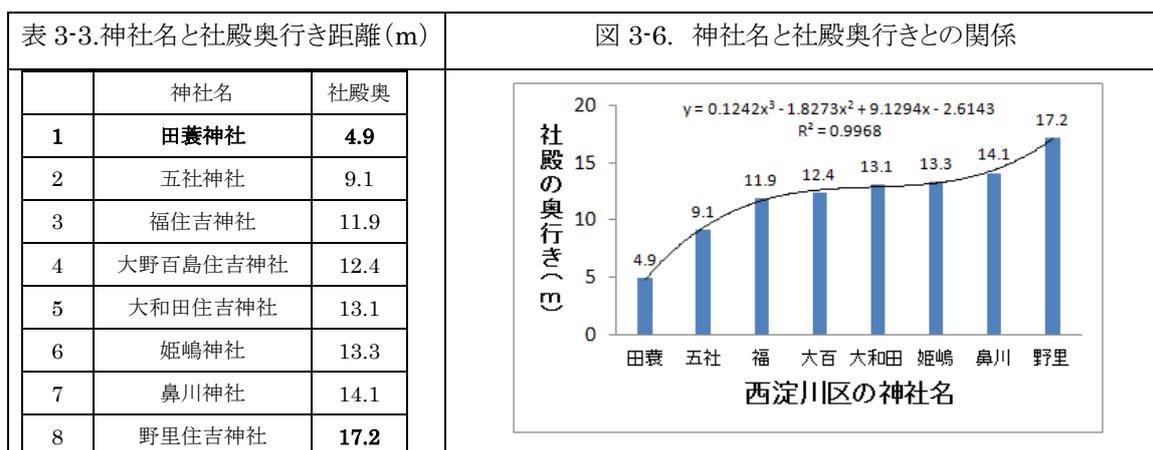
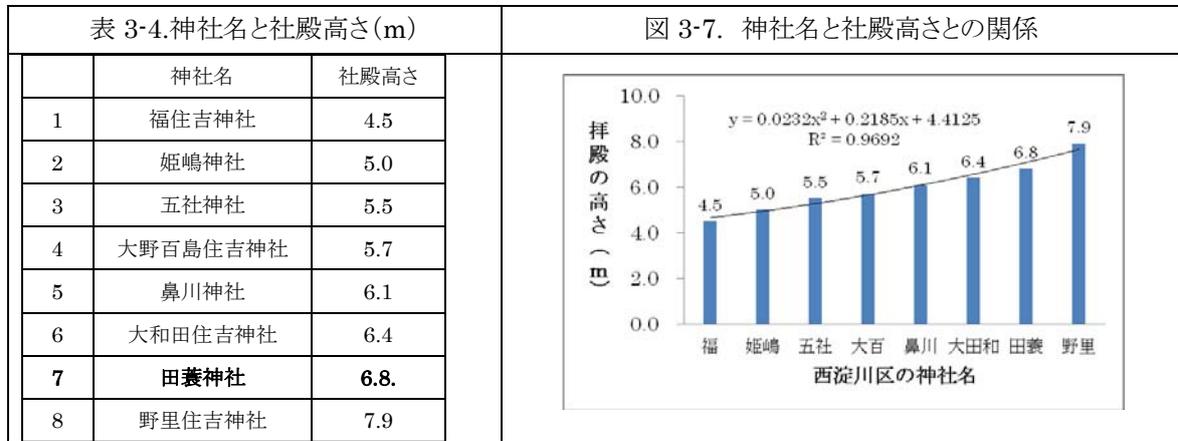


表 3-4 は、西淀川区区内にある各神社と社殿の社殿高さの関係を表示した。西淀川区区内にある社殿の社殿高さにおいて、最大値は 7.9m、平均値は 5.7m および最小値は 4.4m である。田養神社の社殿高さは、区内では 2 番目の高さである。表 3-1 から表 3-4 と図 3-7 について図式を行った。西淀川区区内にある各神社(X 軸)と社殿の社殿高さ(Y 軸で単位は m)の関係から多項式近似(回帰)の 2 次方程式(2 次変数)を求めた。ここで、R<sup>2</sup>は X と Y の信頼性関係を意味する決定係数である。X と Y との関係を探明するため考察方法として、次のような回帰方程式を与えられる。

$$y = 0.023x^2 + 0.219x + 4.413 \cdots \cdots R^2 = 0.969 \text{(決定係数)} \cdots \cdots (3-3)$$

ここで、決定係数は高信頼性のある値であり、西淀川区内にある各神社と社殿の社殿高さの関係から一定の傾向を判明した。



## 4. おわりに

### 4-1. 西淀川区の地域環境

西淀川区の地名に、竹島、御幣島、佃島、出来島、姫島、百島、中島、城島、西島、外島など、島の名が多いのは、その名残と言える。現在は浸水対策として、大規模な防潮堤が築造され、今後の抜本的な浸水対策として、“淀の大放水路”も着工した。西淀川区の誕生は大正 14(1925)年 4 月 1 日で、明治・大正・昭和の初期にかけ、水運の発達や鉄道・道路・橋梁などの急速な整備に伴い、紡績・機械・金属・鉄鋼・化学といった近代工業が集中し一大工業地帯を形成した。河川汚濁の多い大野川・中島大水道も市民生活の環境改善を図り、緑あふれる緑陰道路として再生され、広く区民の憩いの場・健康づくりの場として活用されている。

西淀川区の規模は、大阪府大阪市の最西端に位置し、東西間距離約 5.31km、南北間距離約 5.94km、境界線距離約 17.68km、総面積 14.23 平方 km である。

㉑区内最東端の町である柏里 1 丁目は、34°42'33"N と 135°28'15"E。

㉒区内最西端の町である中島 2 丁目は、34°42'23"N と 135°25'57"E。

㉓区内最南端の町である西島 2 丁目は、34°41'13"N と 135°25'05"E。

㉔区内の 3 島名は中島・西島・佃島。

㉕区内の 4 鉄道名は JR 東海道本線・JR 東西線・阪神本線・阪神なんば線。

㉖区内の川名は中島川・左門殿川・神崎川・西島川・淀川・旧大野川・旧中津川。

㉗区内の 7 駅名は塚本駅・御幣島駅・加島駅・姫島駅・千船駅・福駅・出来島駅。

㉘17 町名は西島・百島・大野・竹島・花川・千舟・福町・柏里・中島・出来島・歌島・姫里・野里・大和田・姫島・御幣島・佃。

㉙17 橋名は中島新橋・辰巳橋・左門小橋・左門橋・中島出来島大橋・城島橋・城島小橋・千北橋・千船大橋・神崎大橋・両島橋・中島大野高架橋・新伝法大橋・伝法大橋・淀川大橋・中島川橋・神崎川橋である。

### 4-2. 西淀川区にある田養神社の調査要約

大阪市西淀川区、田養神社の由来と社殿測量の解析によって明らかにした点と模型製作を行なった点を要約する。

1. 御祭神は、住吉四柱大神(表筒男命、中筒男命、底筒男命、神功皇后)
2. 神社の創建は 869 年で、鳥居建立は 1511 年～1987 年である。
3. 社殿の建築様式は住吉造、鯉木は 18 本である。
4. 社殿の建築物の配置図が作成できたのである。

5. 社殿の規模は、正面横 12.4m、奥行き 4.9m、拝殿高さ 6.8m で、本殿高さ 8.8m である。  
本殿と拝殿は奥行き 15.8m と幅 23.8m の敷地範囲にある。  
左側から鯉木は 5 本×2 と 4 本×2 の 4 棟がある。各棟の面積は 2m×2m=4 平方メートルである。
6. 社殿の模型製作は、実測の 17 分の 1 で行った。

		
写真 4-1. 神橋大橋(千舟より佃方面を眺める)	写真 4-2. 佃付近で写された小学校(明治 45 年)	写真 4-3. 西淀川区民まつり(2010)

## 謝 辞

神社の調査時には、大阪市西淀川区にある田蓑神社の平岡努宮司に了解を頂きました。本論文作成にあたっては、資料提供のご協力を頂きました大阪市西淀川区の第 103 代大阪府議会議長岩見星光・第 106 代大阪市議会議長荒木幹男・山本富士雄・香川婦美子と関係者をはじめ大阪府神社庁と Wikipedia の関係各位に感謝申し上げます。図書文献の調査提供には、大阪市立西淀川図書館の斎藤健一館長に感謝申し上げます。

情報分析・情報処理には NPO 法人洞窟環境 NET 学会の八頭司彰久・上野裕・藤田浩史・肥塚義明の各氏に厚く御礼申し上げます。

(2012 年 1 月 11 日受稿、2012 年 2 月 2 日掲載決定)

## 参 考 文 献

- 1) 大阪都市協会編：『西淀川今昔写真集—西淀川区制 70 周年記念』、西淀川区制 70 周年記念事業実行委員会、1995 年。
- 2) 大阪都市協会編：『西淀川区史』、西淀川区制 70 周年記念事業実行委員会、1996 年。
- 3) 外山晴彦・サライ編集部：『神社の見方』、小学館 第五刷、2005 年。
- 4) 梨本敬法他：『これだけは知っておきたい神社入門』、洋泉社、2007 年。
- 5) 正木晃・中尾伊早子監修：『よくわかる!神社神宮』、PHP 研究所、2007 年。
- 6) 渋谷伸博：『日本の神社』、日本文芸社、2008 年。
- 7) 井上順孝：『図解雑学!神道』、ナツメ第五刷、2008 年。
- 8) 外山晴彦：『神社のことがよくわかる本』、東京書籍、2008 年。
- 9) 洞窟環境 NET 学会：「大阪市西淀川区の神社研究」<http://www.cave-ens.com/cave/jinja.html>、2010 年。
- 10) 沢 勲・西山正明・石田信也・北川和孝：「大阪市西淀川区、田蓑神社の末社と石燈籠と鳥居」、大阪経済法科大学地域総合研究所紀要、3 号、2011 年。
- 11) 沢 勲・肥塚義明・北川和孝：「大阪市西淀川区、田蓑神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要、2 号、2011 年。
- 12) 沢 勲・石田信也・朴永晔：「大阪市西淀川区、姫嶋神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要、2 号、2011 年。
- 13) 沢 勲・富田和広・北川和孝：「大阪市西淀川区、大和田住吉神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要、2 号、2011 年。
- 14) 沢 勲・西山正明・金世徳：「大阪市西淀川区、福住吉神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要、2 号、2011 年。

- 15) 沢 勲・富田和広・肥塚義明:「大阪市西淀川区、鼻川神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要、2 号、2011 年。
- 16) 沢 勲・上野裕・西山正明:「大阪市西淀川区、五社神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要、2 号、2011 年。
- 17) 沢 勲・石田信也・朴永炅:「大阪市西淀川区、大野百島住吉神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要、2 号、2011 年。
- 18) 児玉幸多:『日本史年表・地図』、東京書籍、吉川弘文館 2011 年。
- 19) 沢 勲・西山正明・石田信也・八頭 彰久:「大阪市西淀川区、野里住吉神社の由来と社殿測量」、洞窟環境 NET 学会紀要 3 号、2012 年。
- 20) 沢 勲・六埜博治・長谷部憲司・石田信也:「大阪市西淀川区、姫嶋神社の由来と社殿測量」、洞窟環境 NET 学会紀要 3 号、2012 年。
- 21) 沢 勲・長谷部憲司・西山正明・石田信也:「大阪市西淀川区、大和田住吉神社の由来と社殿測量」、洞窟環境 NET 学会紀要 3 号、2012 年。
- 22) 沢 勲・西山正明・乾貞人・古谷昭雄:「大阪市西淀川区、福住吉神社の由来と社殿測量」、洞窟環境 NET 学会紀要 3 号、2012 年。
- 23) 沢 勲・六埜博治・河野賢治・肥塚義明:「大阪市西淀川区、鼻川神社の由来と社殿測量」、洞窟環境 NET 学会紀要 3 号、2012 年。
- 24) 沢 勲・西山正明・石田信也・中良紀:「大阪市西淀川区、五社神社の由来と社殿測量」、洞窟環境 NET 学会紀要 3 号、2012 年。
- 25) 沢 勲・西山正明・石田信也・立川昌司:「大阪市西淀川区、大野百島住吉神社の由来と社殿測量」、洞窟環境 NET 学会紀要 3 号、2012 年。